

北海道今金高等養護学校 令和6年第2回学校運営協議会（コミュニティー・スクール）記録

開催日時	令和6年10月8日（火） 10時40分 ～ 12時00分	
会場	北海道今金高等養護学校 会議室	
出席者数	12名	4名（事務局）
出席者名	A 北海道教育大学函館校 教授 B 今金町教育委員会 事務局長 C 今金町農業協同組合長、後援会会長 D 社会福祉法人光の里 施設長 E 今金町校長会 会長 F 一般財団法人i・スマイル理事長 やまとや金物店店長 G 相談支援事業所相談室ひかり相談員 H 今金町保健福祉課 保健師 I 今金町商工会女性部 部長 J 今金町農業協同組合 青年部顧問 K 寒昇町内会 会長 飯出 広行 北海道今金高等養護学校長	教頭 伊 東 実 事務長 市 川 聡 総務部 内 田 義 文 教務部 山 本 拓 郎 進路指導部 大 倉 正 也 支援部 横 畠 かれん
内 容		記 録
1 開会の言葉	教 頭	今回は、3つの部会に分かれて協議する。活発に出し合って良い話し合いになるよう期待している。 第2回目は、各委員が3つの部会に別れて、それぞれのテーマに沿って協議していただく。 部会については 第1部会（学校経営、教育活動連携部会） 柱：社会の変化に伴う、これからの本校生徒に求められる資質・能力及び地域の資源を生かした教育活動と現場実習拡大と就労先の開拓について 第2部会（特別支援教育地域推進部会） 柱：外部支援、Coとしての実績報告とその課題について共有し、外部支援的な部分でのこれから学校としての対応や心構えについて 第3部会（地域就労・生活連携部会） 柱：本校における進路指導、卒後指導の部分を共有し、今金町との関わりの中で本校卒業後今金町に就労していくための今後の体制整備について（就労支援事業、i・スマイル、新事業、その他） ・在籍中に付けておかなければいけない力、求められる人材について ※3部会に分かれての協議内容については、部会部会記録を参照。 【第1部会】 ・通学用の路線バスの値上がりについての危機意識と対応策について。 ・今金町外からの移住者の意見を参考にしていく。 ・お年寄りの除雪等、地域貢献の学習活動の拡大。 ・企業向け説明会の開催と今後の展望。 ・林業や農業等との連携について。 【第2部会】 ・今年度のコーディネーター業務の資料を参照し、現状と変化を協議した。
2 会長挨拶	A 会長	
3 進行説明	教 頭	
4 各部会協議		
5 各部会報告		

6 校長挨拶	校 長	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に応じた ICT の活用と影響について。 ・進路では、成長と同時に身に付けるべきしつけを伝えていく必要性を感じている。 ・将来像や進路については、高校に入ってからではなく、少しずつ意識させていく。 <p>【第3部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農福連携の話が主となった。人手不足が深刻化している。 ・モバイルオペレーターは、人手不足解消のキーとなっている。 ・雇用者は障がい者への理解や知識を持つことが求められる。 ・函館高等技術専門学院のような、訓練できる養成所があると良い。 <p>今回は、各委員から有意義な意見をいただいた。 この意見を生かして、今金高等養護学校、今金町をさらにより良いところにしていければと考える。</p>
7 閉会の言葉	教 頭	

学校運営協議会 第1部会 学校経営・教育活動連携部会 会議録

開催日時	令和6年10月8日(火) 10:45~11:40	
会場	本校校長室	
出席者数	学校運営協議会委員	学校 3名
出席者氏名	B (今金町教育委員会 事務局長) C (今金町農業協同組合長、後援会会長) F (一般社団法人i・スマイル 理事長) E (今金町校長会会長 今金中学校長) 飯出委員(北海道今金高等養護学校長)	・校長 飯出 広行 ・教頭 伊東 実 ・事務長 市川 聡

記録

<協議の柱>

○社会の変化に伴う、これからの生徒に求められる資質・能力及び職域の資源をいかした教育活動と現場実習拡大と就労先の開拓について

R6第2回学校運営協議会 第1部会 要旨

○飯出校長

町ぐるみで学びの場を提供して頂いていることに感謝。時代にあった教育活動をしていきたい。

○C

現場実習について、生徒はまじめに取り組んでいる。色々な現場で経験をしてもらいたい。

○F

現場実習も大きい企業と小さい企業があり、小さいところは教えられる事に限界があり、もう少し時間があればもっと教えられるのだからと感じた。

○B

全道の教育関係者の会議の場でも今金の取組みは注目されている。情報交換では、どこの町村も子どもの減少と就労の開拓に苦慮している。また、義務教育は部活動の地域移行が進んでいる。今年度は中学校のグラウンド工事があり、中学校と養護学校と一緒に部活動を行ったりしているが、工事が終わっても交流を続けていければと思っている。

○E

普通学級においても特別支援教育に関わる内容が増えている。そういう点では中学校としてはすぐに相談できるという強みがある。

○全体

バスの値上がりについて、本校はアクセスについて課題があり、さらにバス代が値上がりしている現状である。

○B

町外からきた赴任者の人の意見など、ずっと町内にいる者とは違った意見も聞けるのではないかと。フィードバックしてみてもどうか。

○F

町(町民)と生徒との接点がなかなか無い。特にお年寄りなど声をかけてほしい。こちらの方から除雪のボランティアなどアイデアを出していけばどうか。

○飯出校長

地域貢献、社会貢献も大事な事なのでいいと思う。

○B

企業向けの学校見学会の手応えはどうだったか。

○飯出校長

4企業1事業所が来校。関心のある企業はあるが、どうしていけばいいか迷うところがある様子であった。こういう形で周知していかなければならない。手応えはあった。来年もバージョンアップしてやりたい。本校の学科の特色を生かして、林業と

のからみで町との連携で木工関係の進路も開拓できればと思う。

○E

将来的には林業を中心にとの考えもあり、町内を盛り上げるために進路を広げる方向でもある。

○F

企業はどこも人手不足。町全体が盛り上がる雰囲気作りは必要である。

学校運営協議会 第2部会 特別支援教育地域推進部会 会議録

開催日時	令和6年10月8日(火)10:45~11:40	
会場	本校会議室	
出席者数	学校運営協議会委員 4名	学校 2名
出席者氏名	A (北海道教育大学函館校 教授) D (社会福祉法人光の里 施設長) G (相談支援事業所相談室ひかり 相談員) H (今金町保健福祉課主幹 保健師)	・総務部長 内田 義文 ・支援部員 横島 かれん
記 録		
<p><協議の柱></p> <p>○外部支援、COとしての実績報告とその課題について共有し、外部支援的な部分でのこれから学校としての対応や心構え。</p> <p>*別紙資料(令和6年度パートナーティーチャー派遣事業及び入学に関する教育相談件数について)</p>		
<p>○冒頭で別紙資料に沿って今年度のパートナーティーチャー派遣事業及び教育相談について、説明を行った。</p> <p>○内田 Hさんからは幼少期の子どもについて昨年度からの変化があればお聞きしたい。また、Gさんからは昨年度も普通高校進学後の進路変更や生活の変化などのお話もいただいております。Dさんには卒業生もお世話になっているので、これらに関して学校でできることとできないことなども含めて交流できればと思います。</p> <p>○H パートナーティーチャー派遣件数が昨年より増えていてよかった。乳幼児健診について、昨年と変わった点として弱視の検査が必須となった。就学までの乳幼児の段階で把握できるようになったことが大きい。また、子どもの数が減っても支援のニーズがある子どもは一定数いることを改めて感じる。</p> <p>○内田 新たに弱視の検査を行ったことで影響はあったか。</p> <p>○H 実際に眼科へ通院をお願いした例はある。ただ、視力の問題だけではなく行動面から検査が難しい子どもがいる。弱視かどうかだけでなく、幅広く検査を行うことで医療機関と結び付けるといった目的もある。</p> <p>○G 現在も昨年と同様の相談を受けており、今金高等養護学校と迷って普通高校に進学したが、就職へつながることへの難しさを感じているケースがある。また、町外の地域からも同様の相談を受けることが多い。進路選択が難しく、子どもに診断名を伝えることを迷う保護者もいる。</p> <p>○横島 本校でも、実際に普通高校進学後の相談を受けることがあった。また、中学校からの進路選択についての相談も多い。私達の立場でどちらを選択すべきか伝えることはできないが、複数の学校で教育相談を受けるなど、幅広く情報を得てほしいことをお伝えしている。</p> <p>○G 普通高校を選択する理由として、本人が普通学級の友達と一緒に進学したいという声をよく聞く。保護者も子どもの意思を尊重して、という例は確かにある。</p> <p>○A 函館市の現状としても、普通高校への進学に伴う相談事例をよく聞いている。</p>		

○G

子ども自身が療育手帳の意味をわかっていない、保護者がどう伝えたらよいかわからないケースが多く、小学校就学の段階から支援が必要な実態であっても子どもへ伝えられないまま高校の進路選択の時期に来てしまう。

○内田

本校でも入学後に手帳を取得する生徒が多い。自己理解や自己認知ができていないことから、将来の進路選択にも影響が出るのが考えられる。また、高校卒業後の社会生活に関わって、戸室さんより卒業生の現状や学校でできる指導などがあればお聞きしたい。

○D

携帯電話の普及により、仕事に慣れて社会の一員となる前にSNSや関心のある物事の方へ気持ちが向かってしまい、仕事から離れてしまう人が多いように感じる。携帯電話によるリスクを不安視してしまうが、本日の授業見学で様々なタブレットの活用方法を知ることができた。情報機器との良い付き合い方をしていけたらと思う。

また、授業の様子から生徒達は話を理解して行動し、コミュニケーションをとる力があることを感じた。しかし、そのような生徒ほど目に見えない生きにくさがあると考えられる。それらの課題を踏まえ、働くために継続して指導をする教職員の立場は大変だと思った。

○内田

実際に、携帯電話やSNSに関わるトラブルは多いのか。

○G

施設の利用者1人1回はあるのではないかと。SNSだけではなく、金銭にまつわるトラブルもある。

○D

学生から急に社会人になることで、自由をはき違えて一人で何をしてもいいと考えてしまうのだろう。

○内田

トラブルなど、困ったときに相談することはできているのか。

○G

インターネットで情報を得ることで、周りに相談せず自己完結してしまう人が増えたように思う。中には情報を調べることによって自分にあてはまる障害特性についてを知り、自分の中で納得するような人も見られる。

○内田

本校は、親元を離れて施設で生活する生徒もいる。親との関わり方などによる、心の育ちの面で感じることはあるか。

○H

親御さんが子どもを失敗させない状況を作ることが多いように感じる。他の子どもと同じようにできないと可哀想など、人からの見られ方を気にしている。また、生活面でも階段の昇り降りは危ない、外で遊ぶことは危ない、などと考える親御さんもいる。

○内田

子ども自身も人の目を気にし、他者への依存が強いように思う。

○D

周りとは歩調は合わせるが、心からの関わりはできない。また、親が守ることで子どもの制限が増え、結果SNSしかできないといった現状もあるように思う。

○G

卒業生の年代においても、親が前に立って子どもを守り、失敗経験をさせないようにするケースが見られる。

○A

これまでの話を聞き、大学生も同じく高校卒業から自分は自由になったと感じる学生も多いと感じる。障害の有無にかかわらず、18歳から社会人になる人間の発達段階としては妥当なことだと考える。ただし、高等支援学校の

生徒は特に、やってはいけないものの判断が難しい。人とのコミュニケーションについて、学校教育が変わらなければいけない。学校で教えるコミュニケーションは、決まった物事の伝え方など形式的なもので、本質で人と関わるようなことを教えられない。失敗させる教育が必要。知的に課題のある生徒の特性を踏まえても、失敗をどう乗り越えるか経験をもって学ぶ機会が必要になる。

また、進路選択の話題に関して、高校に入ってから将来のことを考えているのは、特別なニーズがある子どもにとっては遅い。小学校の段階で、中学校の特別支援学級か特別支援学校中学部へ進学するかについて検討されていく必要がある。

○横島

地域の小中学校でも、校内で進路に関わる情報や知識が不足しており、特別支援学校への進学の流れなどを把握できていないケースも見られる。また、小学校でも保護者の意向により通常学級に在籍する児童もおり、学校側が支援方法に悩む現状もある。

○D

中学校の3年間はあっという間で、これからどうしようと言っているうちに進路選択や卒業の時期が迫ってしまうだろう。

○G

ただ、中学校の先生方からは進路選択に関わる相談もだんだん増えている。高校に行ってからどうするかではなく、高校を選択した先にどのようなものがあるか、先生方が親御さんを誘って相談に来てくれることもある。良い傾向だと思う。

○内田

それぞれの立場で引き続き情報を発信していかなければいけないと改めて感じる。

学校運営協議会 第3部会 地域就労・生活連携部会 会議録

開催日時	令和6年10月8日(火) 10:45~11:40	
会場	本校会議室	
出席者数	学校運営協議会委員 名	学校 2名
出席者氏名	I (今金町商工会女性部 部長) J (今金町農業協同組合 青年部顧問) K (寒昇町内会 会長)	・教務部長 山本 拓郎 ・進路指導部長 大倉 正也

記録

<協議の柱>

- (1) 本校における進路指導、卒後指導の部分を共有し、今金町との関わりの中で本校卒業後今金町に就労していくための今後の体制整備について(就労支援事業、i・スマイル、新事業、その他)
- (2) 在籍中に付けておかなければいけない力、求められる人材について

添付資料の説明

・企業向け学校見学会について

→障がい者雇用に対して、各企業興味はあるが、初めて受け入れる企業も多いため、まず生徒の様子を見ていただきたかった。障がい理解については、以前に比べると抵抗は少なくなってきているが依然としてあるのが現状。見学については、いつでも対応できる。

○J

農業関係者は障がいに関する知識が浅い。機械を使用することが多いため、命の危険が伴うためちゅうちょしてしまうが、ハウスの関係者については興味ある人がいるのではないかと。育てている品種によっては人手不足で活躍できるのではないかと。

○大倉

じゃがいも関係では、実習でいもの選別や収穫などできることをさせていただいている。今年度は馬鈴薯センターやほこほこ大地でもお世話になっている。農家によっては必要としている場所もある。

○K

農家の人手不足が深刻。農家間でも人の取り合いになってしまうほど。それを担ってくれる人員がいれば魅力的。

○J

生徒に任せるとなるとやはりハウス系になってしまうのではないかと。それか、じゃがいもの収穫。常時ではなく、繁忙期に欲しいことが多い。デジタル系が強くなってくれば、トラクターにも乗せることも可能ではないかと。後は免許が必要。

○K

IT関係が強くなってくれば雇えるのではないかと。

○J

今の農家はモバイルの時代が変わってきている。それが使えれば話が変わってくる。

○K

オペレーターができれば話が変わってくる。

○J

青年部員に学校を見学してもらおうと、興味をもってくれる関係者がいるのではないかと。人材がいらないから機械にシフトチェンジしている。規模を大きくしたい農家にとっては人材確保がどうしても必要。そのため、iスマイルを活用することもあるのではないかと。実習と雇用となると別問題のため難しい。

○大倉

学校としても人材を町に残していきたい気持ちはある。

○J

農家さんも一歩踏み出したいが、それに伴う知識がない。

○K

実態を知る期間がどうしても必要。その研修所みたいなものがあったらいいのではないか。

○大倉

養成所、専門学校的なものがあったらいいのかと。→函館技専、江別のクリーンリースの紹介。
今金町でもそういったものがあるとありがたい。

○K

こういったところがあると、企業主としては雇用しやすい。

○大倉

進路としては生活の場所が決まらないと進路につながらない。就労支援協定は町と結んでいるが、実際は住居を確保するのが難しい。

○I

ライフは？

○大倉

世話人さんの関係で人数を増やすことが難しい。
こういった養成施設があると、決められた期間のみとなり、受け入れる側としても住居の空きの見通しがつかないのではないか。

○I

社会人になるための施設があるといい。

○K

一般の方も受け入れることができれば、農業の活性化につながるのではないかと。需要と供給はあるがその間がない。

○J

5年後、10年後、15年後経営面積が拡大していくため、より人材不足になる。そのため、養護学校卒業生やiスマイルの人を受け入れるのは必要になってくる。家族経営には限界がある。規模が大きくなってきている農家は家族経営ではなく、法人化していくことで人材採用につながっていく。

○K

じゃがいもといった特産をなくすわけにはいかない。

○J

農福連携を進めていく必要がある。

○I

今金町は他の町に比べると障がい者に理解がある町だと思う。離職した卒業生も町内に残って別の仕事をしている。

○大倉

本校は農業科もあるため、農業関係に就きたい生徒もいるが、企業がない。農家としては即戦力を求めている。

○J

農家間で連携して、夏場に人手が欲しい農家、冬場に人手が欲しい農家で連携できると雇用につながるのではな

いか。

○大倉

長万部のB型事業ではトマトの水耕栽培をしており、最終的にはトマト農家に就職することを目指している。そういったゴールを明確にしている事業所も中にはある。

○K

こういった訓練校が必要ではないか。

○I

先に進むために考えて、動き出していく必要があるのではないか。

○大倉

教える人材も必要。町でそれを担える人材がいると良いが現実は・・・。

○J

青年部の役職ついている人は前に出て話すことができる人がいるため、そういった人たちに講師をしてもらうのもあり？ただ、同じ人に偏ってしまう可能性があるため、その人のウエイトが大きくなってしまう。

町では農家用の求人募集はしている。

○K

ブランド（今金だんしゃく）をもっている地域だと最大限活用していく。

○J

米農家はそこまで人材を必要としていないが、じゃがいもやハウス関係の農家は人材が欲しい。今金町のミニトマトは頭打ち。共選したのが、ここ数年の話。量と品質が安定するため、業者としては購入しやすい。トマトの選別や収穫でも人材確保できたのではないか。

○K

今金は農業の町。これをどう維持していくか。

○J

法人化を考えている農家は意外といる。例えば訓練校→法人への就職などができるといい。